

令和7年度 能代市議会 会派『青松・公明党』行政視察
参加議員 落合範良、渡辺優子、渡邊正人、阿部誠
(R8.1.18~1.21)

視察内容報告書

視察先

・福岡県田川市

統合後の空き校舎の利活用～統廃合となった旧猪位金小学校の校舎を利活用して「音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積」を目指し、「福岡コンテンツバレー構想」を掲げ、その中心拠点として2017年4月にスタートした『いいかね Pallet』の視察

・熊本県菊池市

「郊外向けデマンドタクシーなどの公共交通体系の整備と、導入からの今日までの歩みや、これまでの課題や今後の考え方について」

青松・公明党行政視察（R8.1.18~1.21）



視察先 福岡県田川市

視察項目 1. 廃校舎の利活用、いいかね Palette について

1月19日（月）10：00～14：00

対応者

株式会社 BOOK 代表取締役 青柳 考哉 様

同社経営企画室チーフ 吉田 雄太 様

同社経営企画室 渡邊 耕太郎 様

田川市建設経済部 産業振興課 企業雇用商工係 事務主査 竹志田 寛人 様

同 熊谷 彩 様

視察概要 1. 統合後の空き校舎の利活用～統廃合となった旧猪位金小学校の校舎を利活用して「音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積」を目指し、「福岡コンテンツバレー構想」を掲げ、その中心拠点として2017年4月にスタートした『いいかね Palette』の視察

説明員

株式会社 BOOK 代表取締役 青柳 考哉 様

同社経営企画室チーフ 吉田 雄太 様

田川市建設経済部産業振興課企業雇用商工係 事務主査 竹志田 寛人 様

いいかね Palette での取組について、お話を伺った。



【いいかね Palette 概要】

全国的に課題となっている廃校舎を利活用して運営され、食堂やコワーキングスペース、音楽スタジオや宿泊施設、アートギャラリー、オフィステナント、ドミトリイ等の多彩な施設が入っている複合施設。

営業時間 12:00～21:00 定休日 水曜日

・事業計画の策定から事業の実施まで

2014年4月 旧猪位金小学校校舎閉校、その後事業計画の策定

2015年3月 事業予算成立

2016年4月 応募事業者の募集、株式会社 BOOK 設立

同5月 1次審査（書類審査）

同6月 選考会を一般公開で開催。同日事業者が決定、発表。

同 9 月 起工式及び地元説明会を開催

同 11 月 改修工事着工（2017 年 3 月竣工）

2017 年 4 月 いいかね Palette 事業開始

・運営方法

1、公共施設等運営権方式（コンセッション）の導入

空港（福岡空港）などで採用されている民間事業者が自由度の高い運営が可能な「公共施設等運営権方式（※1）」を採用。

2、運営権設定期間

2017 年から 2037 年までの 20 年間

3、完全独立採算制（※2）

事業展開は民間事業者（株BOOK）の費用で行い、事業で生まれる収益はすべて民間事業者のものとなる。民間事業者が儲けてもよく、施設利用者からの料金収入で運営（施設改修など）が可能となる。

4、費用負担

本市では、事業開始までの廃校設備に係る初期費用の負担と、経営状態が安定するまでの間の光熱水費及び各種点検費用（浄化槽、消防設備等）の負担を行う。

※1、公共施設等運営権方式

公共施設等の所有権を施設に残したまま、施設の事業運営の権利を民間事業者に長期間付与し、民間事業者は施設の利用料金を徴収することによって、自らの投資を回収する独立採算型 PFI※2 事業（特定事業）のこと。

※2、PFI

公共事業を実施するための手法の一つ。民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法です。あくまで地方公共団体が発注者となり、公共事業として行うものであり、JR や NTT などの民営化とは異なる。

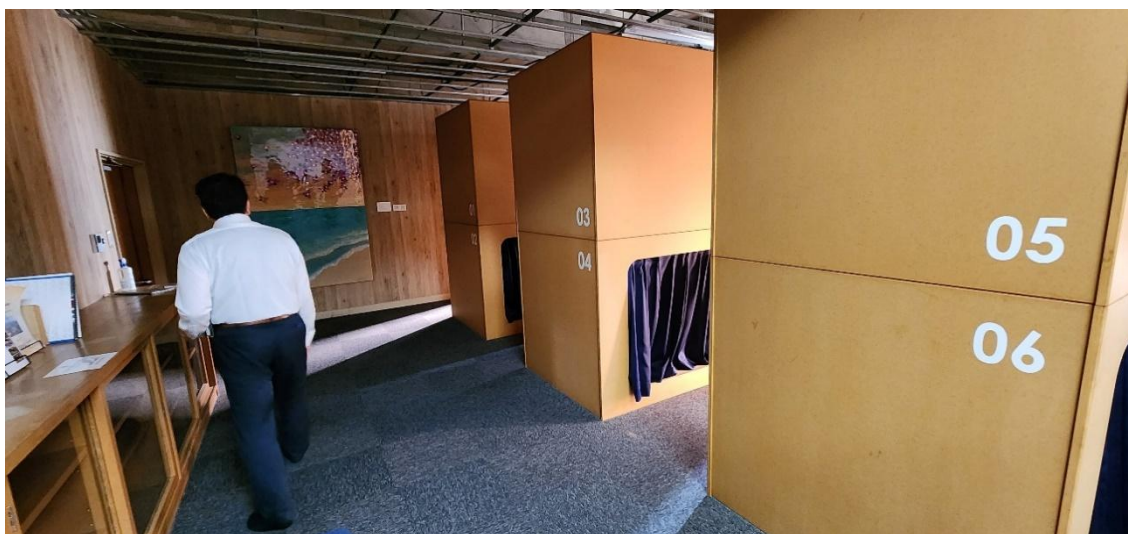
・いいかね Palette の事業内容

2014 年の統廃合により廃校となった「旧猪位金小学校」を利用して、「音楽を中心とするコンテンツ産業の創出・集積」を目指し、その中心拠点として 2017 年 4 月にスタートした施設。敷地面積が約 19,000 m²あり、地方創生加速化交付金を整備財源として株式会社 BOOK が運営権を取得し、地域と共生を図っている。

校舎内には、音楽活動のためのレコーディングスタジオ、リハーサルスタジオ、音曲編集が可能なコントロールルームを備え、ネットインフラが整った音楽スタジオ、制作の拠点をすることにより、アーティストの輩出を生むことが出来る音楽産業の創出に力を入れている。

元ランチルームの広々とした空間を利用し、多目的で使えるコワーキングスペース、読書、勉強、憩いの場として利用できるシェアライブラリーとなっている。

学校に短期、長期に泊まることもでき、木箱のようなBOX型ベッドでぐっすりと休むことができる。大人数で宿泊する場合は教室を利用できる。



シャワールーム完備。

以前の教室をそのままに、会議、テナント、ワークショップ、アトリエとしても多目的

に活用できる。またシェアハウスのように教室を区切って、賃貸で生活することもでき、住み込みで働いている方もいる。



上の画像、シェアハウスの様子

下の画像、教室を賃貸住居にしているエリア。



校舎内にはアート作家による絵が書かれていて、来場者の目を引く工夫が感じられる。



中庭は、子どもたちがバドミントンやドッジボールなどの運動を楽しむことが出来、バーベキュー、オートキャンプ、イベント会場としても利用可能。職員室は、交流の場として活用し、卓球やボードゲーム、マンガ、テレビゲームなどが楽しめるリラックスルームとして開放している。

また、誰でも利用できる食堂「おいとま食堂」が入っており、非日常的でおしゃれな空間で飲食を楽しむことが出来る。



視察を終えて

全国的な課題となっている廃校舎の利活用について、大変有意義なお話を聞かせていただいた。全国では毎年4～500前後というペースで増加しており、頭を悩ませている自治体も多い中で、「公共施設等運営権方式」を採用し、民間企業の自由な発想と行政の伴走支援で企業活動を続けているこちらの取組は、大いに参考となるものでありました。

能代市にある今ある廃校舎の利活用、そして今後出てくることが考えられる廃校舎についても、しっかりと取り組んでいかなければと気持ちを新たにいたしました。

視察先 熊本県菊池市



視察項目 2.「郊外向けデマンドタクシーなどの公共交通体系の整備と、導入からの今日までの歩みや、これまでの課題や今後の考え方について」

1月20日(火) 10:00～11:30

対応者

菊池市議会議長 水上 隆光 様

菊池市政策企画部地域振興課集落定住支援室課長補佐 園田 昭博 様

同 まちおこし係主事 安武 実奈穂 様

菊池市議会事務局議会係参事 右田 一樹 様

視察概要 2.「菊池市の公共交通体制」について

説明員

菊池市政策企画部地域振興課集落定住支援室課長補佐 園田 昭博 様

同 まちおこし係主事 安武 実奈穂 様

公共交通概要について、プレゼン資料を基にお話を伺った。



座学の様子

熊本県菊池市の公共交通は、平成16年に運行を開始した市街地巡回バスの「きくちべんりカー」と、平成18年に運行を開始した予約制乗合タクシー「きくちあいのりタクシー」を組み合わせた独自の体系で運用されています。

1. 主要な交通手段

- ・きくちべんりカー（市街地巡回バス）

市街地内を巡回するバスで、運賃は100円均一。（子ども50円）

買い物や通院など、市街地内の移動を支える「1次交通」の役割を担う。

- ・きくちあいのりタクシー（予約制乗合タクシー）

市街地と路線バス等の公共交通機関が運行していない地域とを結ぶ、事前予約制のドア・ツー・ドア型交通です。運行エリアを5つ設定。1日各4便運行しており、運賃は距離に応じた100円刻みの設定で、200円から最大600円に設定されています。（阿蘇深葉地域のみ1200円）

- ・路線バス

産交バスや熊本電気鉄道（バス）が、熊本市や山鹿市、大津町などの近隣自治体と結ぶ広域路線を運行しています。

質疑応答

問、利用者数が減少していつているが、周知の状況はどのようになっているか。

答、平成16年から行っている事業の為、事業の周知についてはある程度全市民に行き届いているものと考えている。やはり人口減少と免許を持っている方の割合がまだ多いのかなと考えている。運転免許を返納された方に対し、15,000円分のタクシーチケットの交付や、公共交通の周知を行っており、利用者数の増加に転じてくれればと考えている。

問、菊池市では年配の方が日々の買い物や通院に困っている、という声はあまり聞かなくなっている状況と考えるか。

答、市内全域をある程度網羅はされていると思うが、バス路線と乗合タクシーのエリアの境目の方々からは声が上がっており、乗合タクシーのエリアの拡大は今後検討をしなければならぬと考えている。

問、きくちのりあいタクシーについて、補助金の額がR5からR6にかけて大幅に上がっているが、こういった要因があるか。

答、燃料等の高騰もあるが、オペレーターの人件費をR5までは3分の1の助成だったが、全額に上げたため。

問、今後は予約システムの導入を検討しているとの事ですが、いつ頃を見込んでいるのか。

答、当初は令和8年度に導入を見込んでいたが、まずはタクシー会社三社にヒアリングをしたところ、高齢者の利用が多くスマホでの予約は難しいだろう、という意見がありました。またシステムを導入するにあたり、そのシステムのランニングコストと現在のオペレーターの人件費とを比べると、割高であることもわかり、そのような事からまだ検討が必要であると考えている所です。

問、何人のオペレーターで対応しているか。

答、5名で対応をしている。

問、ドライバー不足に対する対応は。

答、平日だけの運行に変えて、ドライバーさんがより働きやすい環境にした。

視察を終えて

こちらも全国的な課題となっている公共交通について、菊池市の担当者から大変有意義なお話を聞かせていただいた。長い間、菊池市民の声を聞き、足となって生活を支えられてきた菊池市の取組は非常に参考になったと同時に、能代市の公共交通の取組についても非常に進んでいる部分があるという事も改めて理解をすることが出来ました。

菊池市でも様々な課題に直面し、その課題を解決するために知恵を絞っていることが分かりました。今回の視察で得た知識や気づきを、能代市の公共交通の利便性をより高めていくために活かせるよう、今後も見聞を広め研鑽を続けていきたいと思えます。